

SCVMMによる仮想環境の一元管理を支援

背景

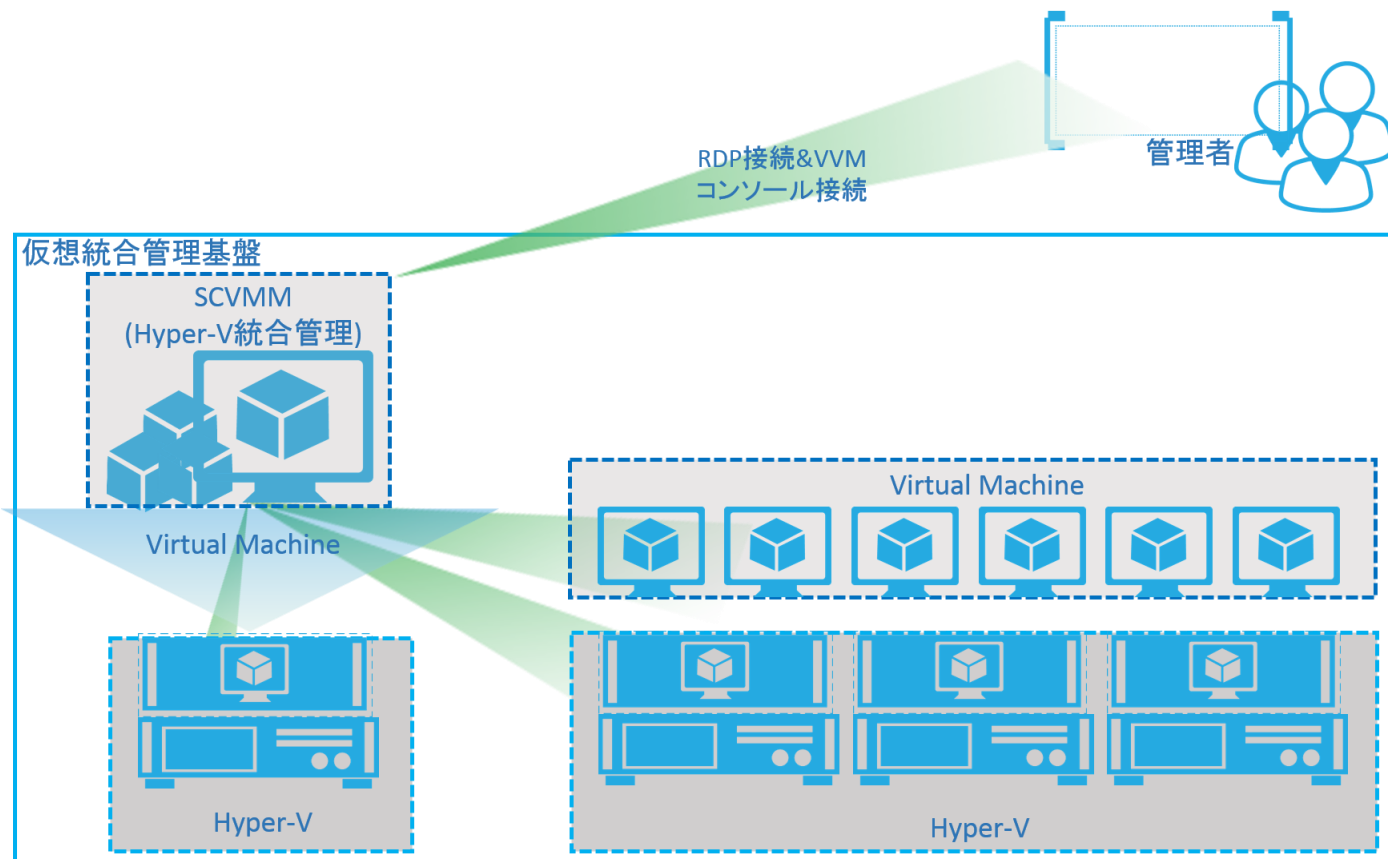
今回のお客様は、関東に複数の拠点があり、海外にも事業所がある公益企業様です。自宅や出張先のPCから社内のシステムやリソースにアクセスするためのサービスシステムを構築し、利用されていましたが、その機器の保守期間の終了がせまり、システム全体をリプレースすることを決断されました。システムのリプレースには仮想基盤が含まれますが、管理や運用の効率化を目的として、各仮想基盤ホストサーバーや仮想マシンを一元管理するための環境が必要となります。

IHSは、お客様の仮想基盤を刷新するとともに、仮想マシンの一元管理をおこなうため、System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager(SCVMM)の構築を行い、リプレースプロジェクトを支援させていただきました。

概要

業種	電機・ガス業
目的	System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager
作業規模	[検証環境] <ul style="list-style-type: none">System Center 2012 R2 Virtual Machine ManagerHyper-V仮想マシン: 7台 [本番環境] <ul style="list-style-type: none">System Center 2012 R2 Virtual Machine ManagerHyper-V: 9台仮想マシン: 29台
作業ボリューム	2人月
作業内容	System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager 要件定義/機能設計/運用定義/構築/動作試験基本設計

構成図



作業のポイント

仮想基盤の一元管理・監視

お客様の環境では、リプレースに伴い複数台のHyper-V、および仮想マシンの管理をする必要がありました。統合管理していない状態だと、仮想マシン等の稼働状況を参照する場合に各サーバー(Hyper-Vサーバー、仮想マシン含む)にログインし確認を行わなければなりません。また、仮想マシンを新規に作成する場合には、各Hyper-VサーバーにログインしHyper-Vマネージャーから作成する必要があります。それらの問題を解決するため、IHSはSCVMMの導入をご提案し、コンソールからHyper-V9台、及び仮想マシン29台を一元管理できるようにし、ホストマシンや仮想マシンの状態をすばやく判別できるようになりました。

テンプレートを使用し仮想マシン作成を効率化

本件では、SCVMMの機能の一つである、仮想マシンテンプレート機能を使った仮想マシン構築の環境をご提供しました。Hyper-V単体では、仮想マシンテンプレートの作成を行うことはできません。仮想マシンに割り当てるプロセッサ数やメモリ容量などを、仮想マシンを作るたびに設定したり、一からOSのインストールをするのではなく、よく利用する仮想マシンのパターンを事前に決めてテンプレートとして作成しておくことによって、仮想マシン構築に伴う煩雑な作業が不要になります。一度仮想マシンを作成すれば、仮想マシンをテンプレートとして扱うことが可能になり、運用コストの削減に繋がります。また、テンプレートを使用することによって環境の標準化が進むため、設定のばらつきによる動作の不安定さが回避され、安定運用ができるようになります。

弊社利用による効果

System Center製品構築実績

IHSでは、近年SCCM リプレースによる移行作業など様々な環境でのSystem Center 製品の構築を提供させていただいており、System Center を用いた基盤構築の実績について、お客様から評価をいただいています。仮想化技術は、ハードウェア、ソフトウェアともに日々新たな技術や手法が出ている動きの激しい分野です。

IHSでは、これらの製品知識や、経験から得たノウハウを常に社内で情報共有しています。

作業内容の詳細

設計

1. 基本設計

- サーバ設計
- ソフトウェア設計
- OS設計
- SCVMM設計

環境構築

1. 資産管理機能

- System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager

納品ドキュメント

- 基本設計書
- 詳細設計書
- 動作確認項目表兼結果報告書
- 運用手順書